

【調査実施日・参加者数】 令和5年4月18日(火) 小学校10校の6年生638人、中学校5校の3年生572人
 【調査の目的】 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査結果の概要】
小学校：国語の対全国比は、昨年度より向上し、初めて全国平均と並んだ。算数は昨年度より若干低下し、全国平均を下回った。
中学校：国語・数学ともに昨年度より向上し、全国平均との差がやや縮まった。
 英語は、令和元年度に行われた前回調査より低下し、全国平均との差が広がった。

質問紙調査
 ・小学校では、「自分で考え、自分から取り組んだ」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」など、学びに向かう姿勢に関する肯定的回答が増加した。
 ・中学校では、「ICTを活用している」生徒の割合が大きく増加した。
 ・小中学校ともに、「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合が大きく増加した。
 ・小中学校ともに、「家庭学習を全くしない」「読書を全くしない」児童生徒の割合が、全国平均を大きく上回っている。

【結果分析からみられる課題】
 ・条件に合わせて書くなど、記述式の問題の正答率が向上する一方で、目的に応じて複数の文章を読むことに課題が見られる。
 ・図形の構成要素(小学校)、データの活用(中学校)に係る知識・技能の習得に課題が見られる。
 ・家庭学習、読書が習慣化されていない。

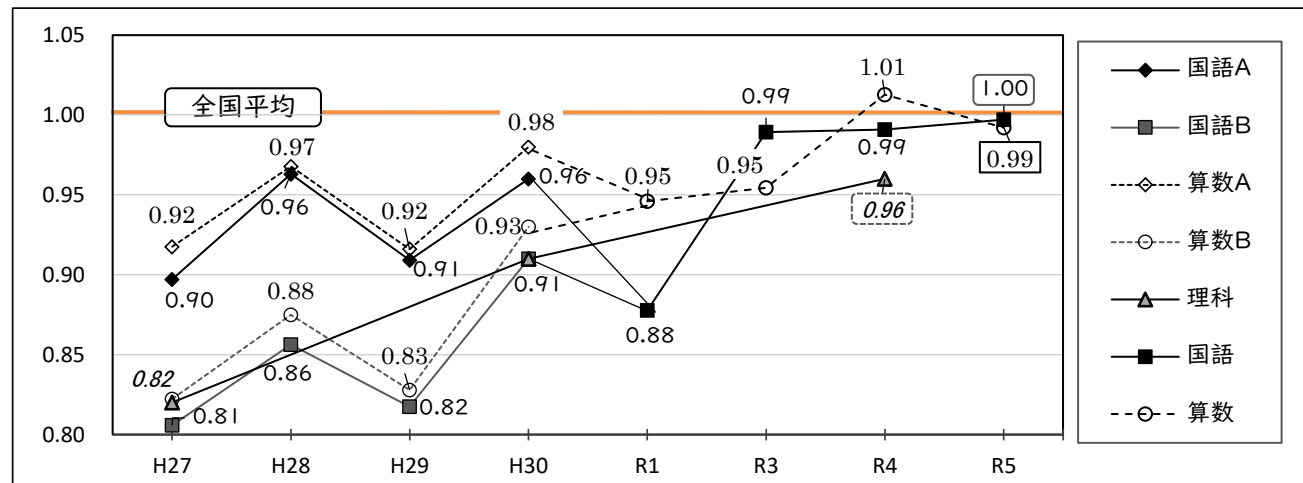
【課題解決のための方策】
<学校>
 ・児童生徒に身に付けさせたい力を明確にし、昨年度に引き続き「読みたい」「書きたい」「伝えたい」という意欲が高まる「魅力的な言語活動」を日常の授業に位置づけ、児童生徒が自ら学習に取り組み、対話によって学びを深めたり広げたりできるようにする。
 ・児童生徒がめあてをもち、自らの学びを振り返り、何が身についたのか、何ができるようになったのかを確認する場面を設定するとともに、児童生徒の学ぶ姿を見取り、主体的な学びを支援する役割を果たす。

<家庭>
 ・校区ごとに実施する「家庭学習ウィーク」の機会を有効に活用し、家庭学習の目的や目標を学校と児童生徒、保護者が共有するとともに、環境づくりや時間設定など家庭での学習習慣を育むための支援を行う。

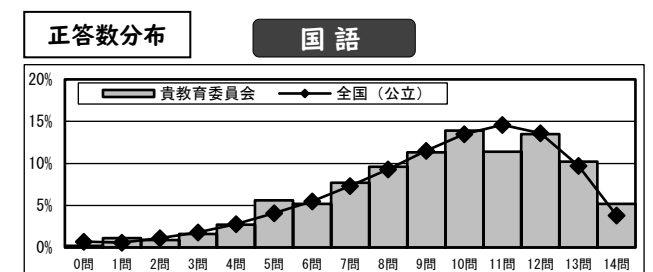
<教育委員会>
 ・定期的な学校訪問や各学校への指導主事の派遣を通じて、授業力向上や組織的な取組の推進に関する指導助言を行う。
 ・日々の指導力とチームワークの向上を推進するため、相互授業参観、先進校視察研修等の取組を進める。
 ・主体性の向上や家庭学習の充実等、本市の課題に対して成果のみられた学校の取組を好事例として、その意義・目的とあわせて普及する。
 ・担当者会において研修を行い、中核教員の指導力・組織力の向上をめざす。

小学校 対全国平均比経年比較

※対全国平均比は、全国平均の数値を1としたときの摂津市の値を表します。

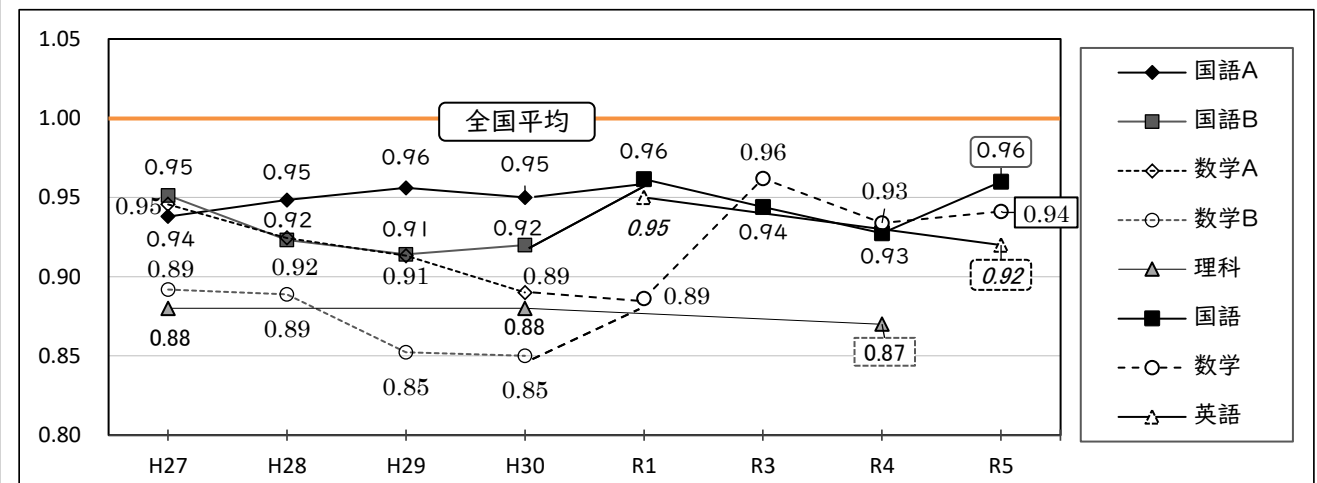


平均正答率	令和5年度	
	国語	算数
全国	67.2	62.5
大阪府	66.0	62.0
摂津市	67.0	62.0
対全国比	1.00	0.99

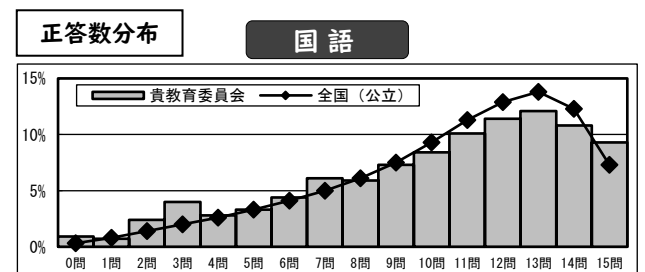


中学校 対全国平均比経年比較

※対全国平均比は、全国平均の数値を1としたときの摂津市の値を表します。



平均正答率	令和5年度		
	国語	数学	英語
全国	69.8	51.0	45.6
大阪府	68.0	50.0	45.0
摂津市	67.0	48.0	42.0
対全国比	0.96	0.94	0.92



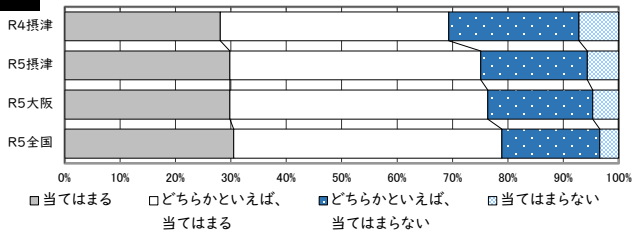
令和5年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果

小学校

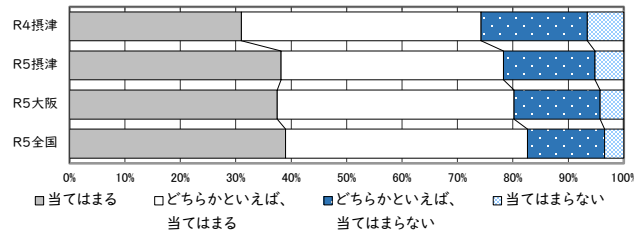
学びに向かう姿

「自分で考え、自分から取り組んだ」、「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合が、共に令和4年度より増加。

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ



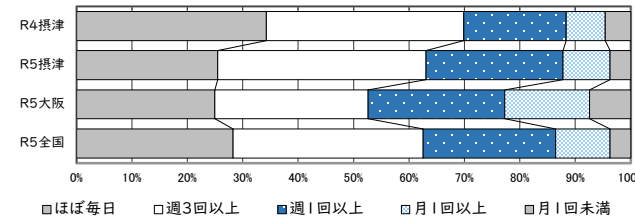
話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



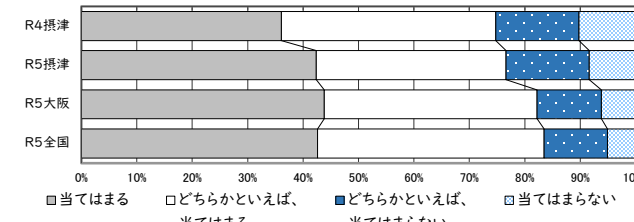
ICT活用／自尊感情

「ICT機器をほぼ毎日活用している」児童の割合が、令和4年度より減少。「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合が、令和4年度より増加。

5年生まで受けた授業でICT機器をどの程度、活用している



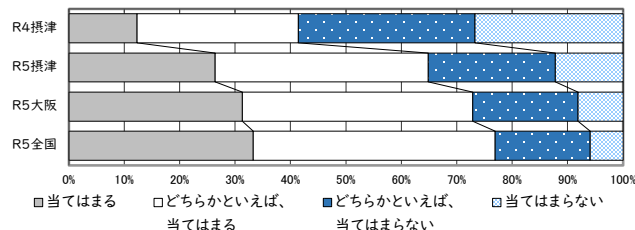
自分には、よいところがあると思う



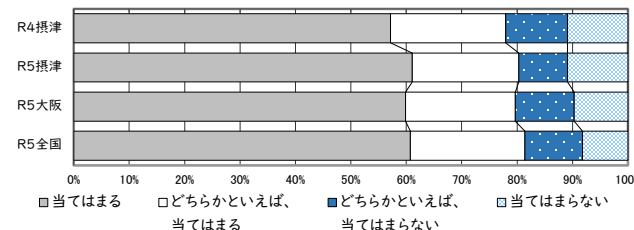
キャリア教育

「地域や社会をよくするために、何をすべきかを考える」、「将来の夢や目標を持っている」の質問に、強い肯定を示した児童の割合が、令和4年度より増加。

地域や社会をよくするために何をすべきか考える



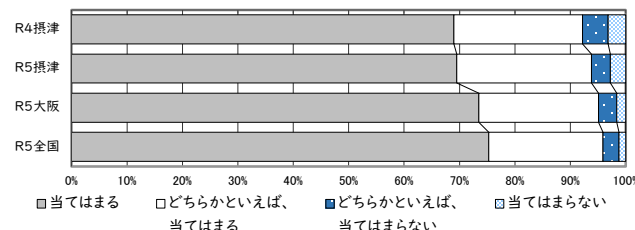
将来の夢や目標を持っている



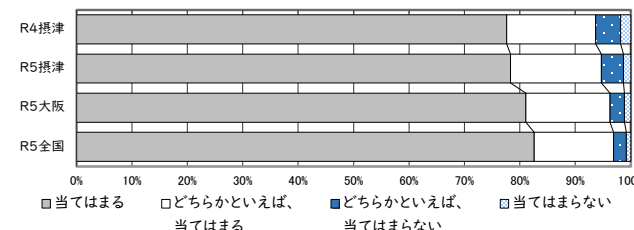
豊かな人間性

「人の役に立つ人間になりたい」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答する児童の割合が、令和4年度より増加。

人の役に立つ人間になりたいと思う



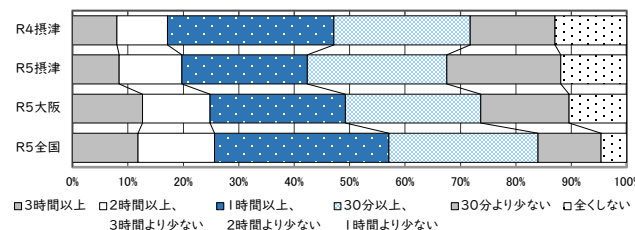
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



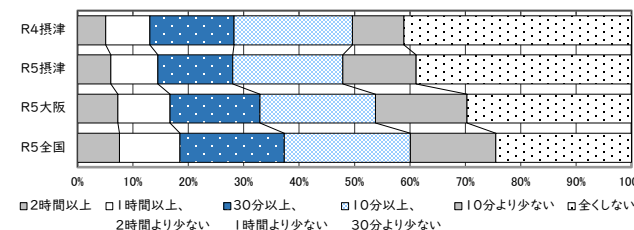
学習習慣／読書量

授業時間以外に、「勉強や読書を2時間以上する児童」の割合が増加した一方で、「勉強時間が30分より少ない児童」や「読書時間が10分より短い児童」も増加している。

授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日に勉強をする時間



学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日に読書をする時間

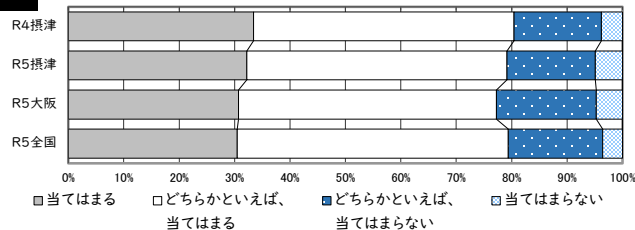


中学校

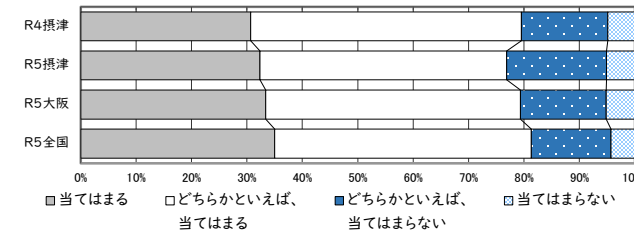
学びに向かう姿

「自分で考え、自分から取り組んだ」と回答する生徒の割合は若干減少。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりした」の質問に対する強い肯定の割合が増加。

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ



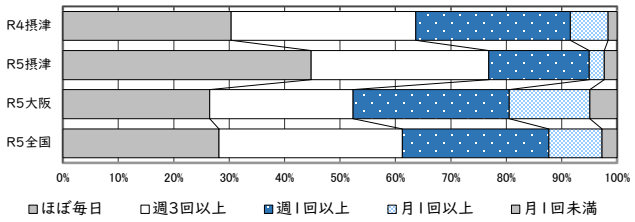
話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



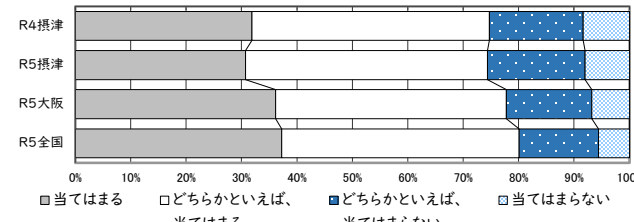
ICT活用／自尊感情

「ICT機器をほぼ毎日活用している生徒」の割合は全国平均を大きく上回り、令和4年度よりも増加。「自分にはよいところがあると思う」の質問に対する強い肯定の割合が減少。

1・2年生の時に受けた授業で、ICT機器をどの程度、活用している



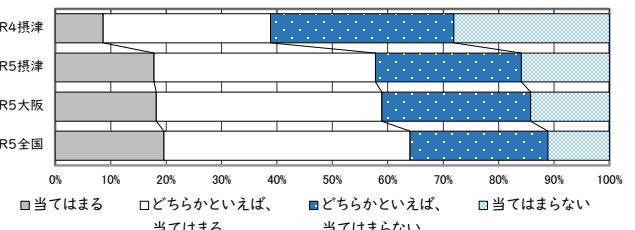
自分にはよいところがあると思う



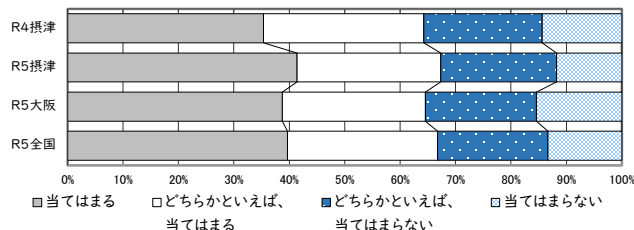
キャリア教育

「地域や社会をよくするために、何をすべきかを考える」と回答する生徒の割合が増加。「将来の夢や目標を持っている」に対する強い肯定の割合が全国平均を上回り、令和4年度より増加。

地域や社会をよくするために何をすべきか考える



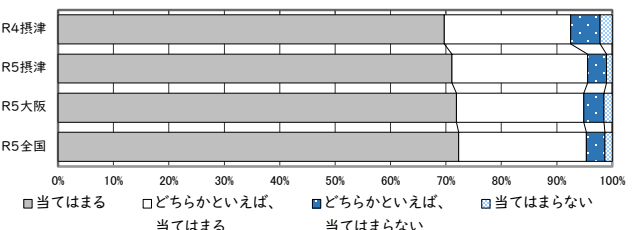
将来の夢や目標を持っている



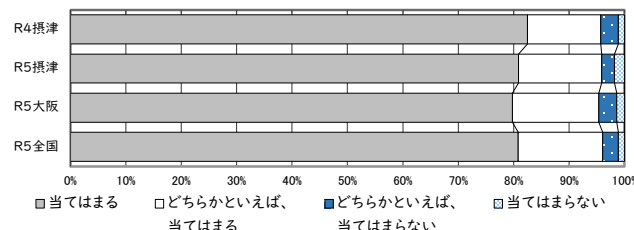
豊かな人間性

「人の役に立つ人間になりたい」と回答する生徒が増加。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」に対する強い肯定を示した生徒の割合が減少。

人の役に立つ人間になりたいと思う



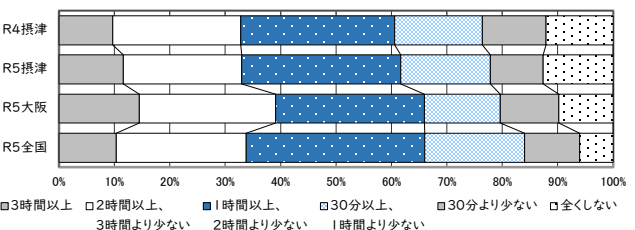
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



学習習慣／読書量

授業時間以外に、「3時間以上勉強をする生徒」「2時間以上読書をする生徒」の割合が増加した一方で、「勉強や読書を全くしない生徒」の割合が増加している。

学校の授業以外に普段(月～金曜日)1日に勉強をする時間



学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日に読書をする時間

